

水牛通信

VOL.3 NO.11
毎月1回・10日発行
定価200円

お父さんの戦争体験—シナリオ 広瀬里美

2

私の映画づくり—広瀬里美さんに聞く 14

陸前高田からの手紙 高頭祥八・香代 16

自由ラジオその後 20

沖縄からの季節工 22

東南アジアのあたらしい音楽の要素 ホセ・マセダ 29

お父さんの戦争体験 シナリオ

広瀬里美

私 高度成長の中で、なに不自由なく育ったといわれる私たちにとって、戦争ははるか昔のできごとのようなのである。

広島・長崎の原爆や空襲の話聞けば、とても恐ろしいことだとは思いますが、それが現在の生活と一体どんなかわりがあるのかわからない。私たちにとってもっとも身近な戦争体験者は、父親であり母親である。しかし彼らはその当時のことを積極的に語ろうとはしないし、また私たちがあらためて聞いてみることもない。

ところがある日、ふとしたことから戦争中、父が炭鉱で働いていたことを知った。当時はまだ十六歳だった父が、なぜ炭鉱などで働いていたのだろう。

父の話では、終戦までの約三ヶ月間、勤労報国隊として北海道の三井砂川炭鉱に召集されたのだという。

そして、さらに驚いたことは、朝鮮人が、全労働者の八十パーセントを占めていたということだ。なぜそんなに大勢の朝鮮人が日本の炭鉱にいたのだろうか。

太平洋戦争がはじまる頃から、軍需産業の基礎的源動力である石炭の徹底した増産体制がしかれ、未熟練労働者が各地の炭鉱に次々と投入された。

しかし、労働力の多くは兵隊にとられていたため、植民地朝鮮から大勢の人を集めなければならなかった。

今から約七十年前、日本は朝鮮を植民地と

して併合し、武力による無謀な侵略によって土地を奪い、私腹を肥やした。

その結果、自分の故郷で生活できなくなった人々は、仕方なく日本に仕事を求めて渡ってきたが、結局、人のいやがる最底辺の仕事に押しやられていった。

また、無理矢理、奴隷狩りのようにして日本に連行され、過酷で危険な労働を強いられる人々さえいたこともわかった。

そのように悲惨な状況の朝鮮の人たちと、父は当時、どのように関わっていたのだろうか。私は直接、父に聞いてみることにした。

父の話

私 朝鮮人はだいたい奴隷みたいにして働かされたんですよ。

父 朝鮮人はそうでもないよ。あのころは日本とおなじだから。いちばん羽振りはやかったよ。八割が朝鮮人だもの。どこ行ったら朝鮮人ばっかりだよ。

私 でも朝鮮人はいじめられて逃げようとして拷問にあったとかって聞くけど。

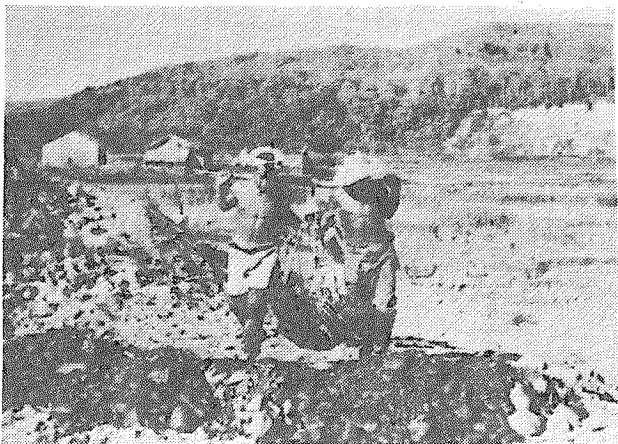
父 そういうのはあまり聞かなかったよ。朝鮮人がいちばん威張っていたよ。大勢でしょ、日本人なんかかなわなかったよ、炭鉱の中では。

私 日本人と朝鮮人とおなじ労働条件じゃなかったんですよ。

父 おなじ条件だよ。朝鮮人だって日本人だもの、その当時は。だもの関係ないですよ、朝鮮人は。

私 父は朝鮮人よりも中国人の方が悲惨な状態だったという。

父 穴のあいたような地下足袋でしょ。それを縄でゆわいたり、そりゃあもう、ひどいもんだよ。われわれ日本人だって、食べもの、ろくに食べられない頃だもの、シナ人なんてそれ以上だよ。朝鮮人は皆おなじだけどね。私 あと南京袋を着てたとかって。



父 うん、そうそう、いろいろいたよ。誰か死ぬともう、それを急いで剥ぐのね。死んじやうと、ぶん投げられちゃうでしょ。そうするともう、我さきにわつと寄つて、着るものをとつかえつこして、寒いから。そういうあれだったね。

私 なぜ父は朝鮮人と日本人の間に差はなかったと思ってるのか。

当時は報道の自由は許されず、侵略の実態も押しかくされていた。逆に植民地朝鮮の人々も、天皇のためには命を棄てる日本人と、共に戦う仲間なのだという宣伝がなされていた。

しかし、戦後三十五年間、朝鮮人に対する印象が変わらずにいることや、日本は侵略国であるということや、私自身が今まで意識しなかったことなどが、とても疑問に感じられてきた。その間、侵略された朝鮮の人々は、どんな思いで今日まで生きてきたのだろうか。もし父が朝鮮の人々の苦しみを知ることができれば、三十五年前の印象も変わるかもしれない。

私 は在日朝鮮人一世の方に直接お会いして、当時の証言を得たいと思ひ、北海道へ渡つた。

蔡晩鎮さんの話

私 朝鮮総聯と、北海道で民衆史の掘りおこし運動をしている小池喜孝氏の協力で、深川市に住む蔡晩鎮さんの体験談を聞くことができた。

蔡さんは今年六十五歳。日韓併合から五年後の一九一五年に小作農の長男として生まれた。

親子三人で耕した米は、すべて地主が持ちさつてしまふし、借金をすれば、次の年には二倍にして返さねばならないという状態だった。

出稼ぎに行かざるをえなくなった蔡さんは、九州の日産工業第二高松炭鉱の坑夫となった。家族五人を呼びよせたものの、会社の待遇はとてひどかった。

蔡さん もう国では百姓したつて食えないし、日本へ行って少し稼ごうと思つて来たところがね。あんまり同胞を会社が仕事へ行かんといつて連れていってはヤキを入れるしね。それを見て、私が班長として来たから、なるべく叩かないでくれ、一所懸命、仕事をするから叩かないでくれといつたら、ダメだといつて、わしのいうことを聞かないから、このままでは、われわれはやつていけない、殺されるから、これをなおそうといつて、ストライキを起して、プタバコに二十七日入つて、出たら手錠をはめたまま下関から連絡船に乗つて、釜山に降りたわけさ。

二月十四日につかまつてきたところがね、防火用水の水を貯めてあつたわけさ。それでその水の中にね、裸になつて入つていふわけさ。北海道の二月だから、氷が約五ミリぐらい張つてるんだな。その氷を割つて裸に入つて、ヤキが入つた場面さ、これがね。

私 一時間もやるんですか。

蔡さん うん。それで今度、出てきたらまず部屋へ入れと。入つたらタコ部屋つちゅうもんは、両側に寝る台があつて、真ん中には土間さ。

私 土間が通つたわけですか。

蔡さん その土間の、皆が寝てる頭の上で、洗面器に水いっぱい持たして、今度それを持つて立つてるというわけさ。幹部の野郎はそ

私 それでもう朝鮮に帰されちやつたわけですね。

蔡さん うん。朝鮮へこんど帰つても、故郷に行けないんだな。故郷にはだれもいないんだし。

私 朝鮮に帰された蔡さんは、ふたたび日本の炭鉱坑夫募集に応募した。

北海道炭鉱汽船の直接坑夫という約束が、だまされて、その下請けをしている土屋組のタコ部屋に入れられた。いっさい口ごたえは許されず、過酷な労働を強いられるという状態だった。

蔡さん おまえら、幹部のいうことをきかなかつたら半殺しにしてしまふぞ、とこういうふうにいふし、おまえら、北海道は島ということを知つてるだろうといふんだ。その島に来た者は絶対逃げないんだとね。

私 海だから。

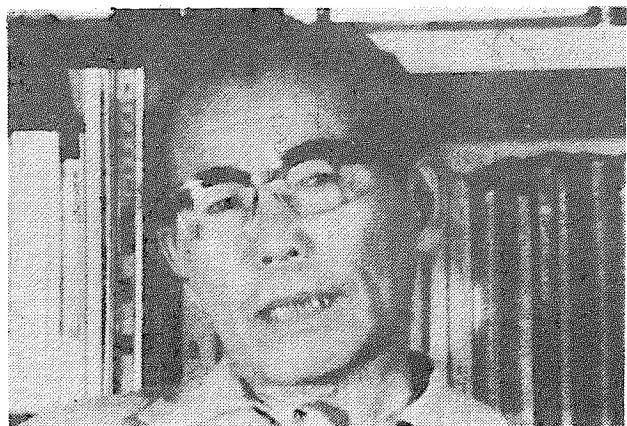
蔡さん うん。だからこの山の向こうは海だ、あの山の向こうも海だ、と、その日からずつと何ヶ月もそういうもんだから、本当に海だとばかり思うわけさ。夜中に降ろされたしね。

私 非人間的な扱いにたまりかねた蔡さんは、タコ部屋をつぶそうと部屋の仲間たちにもちかけた。

蔡さん 一般的には助かるから、そういうふうにしよという時にスパイが入つてね。二回も失敗したから叩かれてね。ツルハシの柄みたいなのを幹部たちは一本ずつ持つて歩くんだ。その棒で背中をボンボン叩くけどね。しまいには、やつら叩くのにも力がいるもんだから、今度、二人を向きあわせて、たとえはおれがあんたのピンタを張る、相手がおれのピンタを張る、そういうことをそばで見てるんだ、自分は椅子にすわつとつてね。それでおまえ、仲間同志でピンタ張つたつて、そんなに力を入れないわけさ。そしたら力を入れないといつて背中をボンとたたかだろ。そんなバカなね。ねえ、こんなやつら、いま考えたら、本当になんともいえないよ。

そういう中で今度、私はこれではとてもやり切れないから、外へ出て工作しようと思つて逃げたところが、山の向こうは海だとばかり思うから、遠くへ逃げられないでね。次の朝つかまつたさ。

ばで椅子にポッコ(棒)を持つてすわつてるし、立つたら自然に下るわけさ。下つたらまた足をぶんなぐるわけさ。裸で、真裸で立つてるんだよな。叩いたらまた上る。下る。それも約一時間ぐらいやつて、それから御飯も食わさないで、寝かさないで現場へ行つたわ



けさ。それから一週間は逃げた罰則だといつて、部屋にも上げないで。昼食だから、一日二交替だつたら十四日(分の仕事)やることになるわけさ。おれは最高やつたときは四十八コースやつたんだ。ひと月が三十日しかないのに、四十八日やるつていふことは……。

私 まる一日働いて、それを何回もやるつていふことですね。

蔡さん うん。そういうふうによつてね、それでも給料は一銭。

私 一銭……一銭で当時なにが買えましたか。

蔡さん 一銭でアメ一本。マッチだつたら三つ買えるんだ。だから、一銭の者と三銭の者と五銭の者と、合わせて十銭になつたらね、みかん。これくらいちっちゃいみかんが一山で十二、三個あるんだな。それを皮のまま、一銭出した者も五銭出した者も、おなじく分けてね、食べるわけさ。

だから、本当に今ここで言葉でいうけどね。長男がね、私が十五年に来るとき七歳だつたんだ。それが十六年の春に死んだわけさ。その死ぬまではね、おれがここで死んでも、おれには後継ぎがいるんだつていう気持ちがあつたんだな。

そしてそれが死んだつちゆうたらね。子供が死んでもお母さんが達者ならいいなと、これが本当なんだけれども、やっぱり人間の気持は違っていたな。それからもうがっかりしてね。もうどうにでもなれていう気持ち持たな。

だから僕はタコ部屋の中で逃げる前に、死ぬかとも決心して、発破(炭鉱内で掘進のために仕掛ける火薬)かけたあとには、必ず天井が落ちるんだよな。(その下へ立って)畳一枚ぐらいの岩がまともに落ちたらね、もう一発で死ぬんだけど、それがなかなか畳一枚のものが落ちないんだよ。げんこつぐらいのやつが肩だとか頭だとかに落ちてね、ただ痛いだけさ。それでもできないで、しまいは逃げる形になったわけさ。

私 日韓併合が蔡さんにもたらしたのは、まさに死の苦しみそのものだった。

しかし、そのような状況の中でタコ部屋の幹部になるチャンスをつかんだ。そして、まもなく警察部長の浜岩男さんと友達になり、二人で協力して、まったく自由のないタコ部屋を信用部屋として開放することに成功した。あくまで暴力に抵抗して来た蔡さんに、なに

か底知れぬものを感じながら、深川をあとにした。

父の話

私 とところで父のいた三井砂川炭鉱は、どのようなところだったのだろうか。上砂川は現在でも活動をつづけている数少ない炭鉱町である。

同じ形の炭鉱住宅が、谷あいの狭い土地にズラッと並び、すべてが三井砂川鉱業所を中心に活動している。いちばん盛んだったのはやはり戦争中で、そのとき坑口は七つもあったのだが、戦後、石炭から石油へのエネルギー転換によるあいつぐ規模縮小で、現在は第一坑だけが残っている。

労働組合の川上三男さんの協力で、坑口から出てくる労働者の姿を見ることができた。

戦争末期の炭鉱は保安設備や物資の不足によって、落盤やガス爆発が多く発生した。人海作戦によって集められた不馴れな労働者たちにとつて、坑内に降りていくのはどんなに恐ろしく辛いことだったろうか。

父 (坑内へ) 行く前に、自己捜検といつて、マッチ・タバコを持っている人はすぐその場

で(係員に)渡すの。入る時にみんな服装検査するんだから。もう危いと思つたら、弁当の中まで開けて見るんだから。それでそのときになると、ひっぱつていかれちゃう。

私 それでどうなるの。

父 相当ひどいらしいよ。ぶつたりけつたりされるらしいよ。

恐いよ。こうやつたら(キャップライトを手でおさえたら)一つもここに何があるのかわからない。電気だけだもの頼りは。だから電気ひとつまちがえると、もうどこもわからない。それで二千メートルもずつと降りていくの。大変だよ。はしご段みたいになつていく所をトコトコ、トコトコ。

そうすると、お父さんたちは炭掘りはできないでしょ。こんな石の塊をドコドコと、ピツクというやつで掘っていくんだけど、それを今度トロッコさ入れて、そいつをどんどん運びだすのよ。それがもう毎日、休みなしに繰り返してやっていると、そこへ今度、崩れないように松の柱をたてて、蝶番いで打つて。

私 お父さんがね、炭鉱に行くことにきまつたときに、行かないといつたら、もうどんなことになった。

父 さあ、どんなことになったのかね。あのころ、行かないっていうわけにはいかなかったわね。志願して行く人が多い時代だもの。

私 ああ、「私、行きます」って行く人が多かったのね。

父 うん。そういう時代にね、行かぬえなんて人はいなかったよ。

私 だけど、もし行かなくていいっていうことだったら、行かなかったよ。

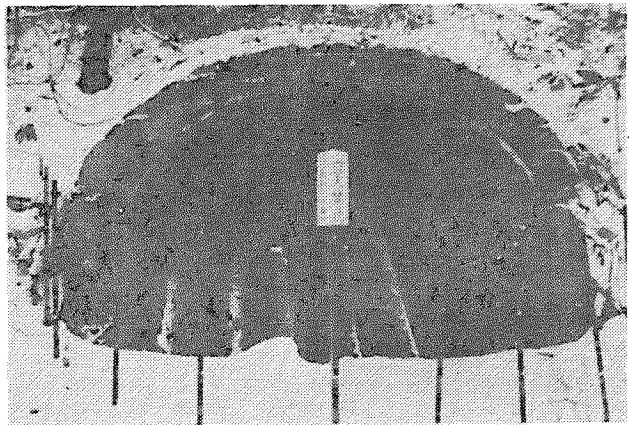
父 うん。行かなかったかもしれないね。

三尾さんの話

私 当時のようすをくわしく知っているお年寄が、現在でも上砂川に住んでいることを知り、訪ねてみた。

まず、会社の労務課に古くからいたという三尾万造さんにお会いした。三尾さんは労働者を使う立場にあつたので、なかなか口を開かず、また撮影は何度もお願いしたが、最後までどうとう許してもらえなかった。

三尾さん いや、だめだ。もう、せつかく来たけど、わからなくてだめなの。お茶飲みなさい。



さあ、せつかく来てあれだけど、なんせわからない。私、文珠育ちだけどね。神威の小学校出たからね。尋常高等小学校、聞いたことあるでしょ。その高等科出てるから(三井炭鉱に)すぐ採用になったわけさ。

私 じゃ学歴で採用になったんだ。

三尾さん 学歴っていうか。(あのころは学校が)なかったんだもの。あ、今のやつ(カセットテープに)入ってるのかい。なあんだ、あんまり必要でないものもあるんでないの。あはは……。

そのうちにね、(労働者が)どんどん来たでしょ。朝鮮人も入るし、シナと戦争してシナ人も来るし。どんどん来て、あっちこっちに朝鮮の人たちの部屋をつくってやったんだ。

私 なんかね、朝鮮の人みんなひっぱつてきたんだから。戦争へ行つてあれしたやつ、みんな軍隊でもってひっぱつてきておいたんだから。そういう人たちにね、おかみさんなんか、こつちへ呼んでカマド持ったら(所帯をかまえた)ら)どうだって、皆で説得したの。それで私、朝鮮まで行ってきたんだ。光州なんかの町へ行くでしょ。村の主だった人に会つてさ。だれそれの奥さん、子供って、ぜんぶ集めさせたの。それから私が話するの。君たちのお父さんが働いて食うことができるんだから。もう御飯でも米でも、豊富にあるから行かないかって、ぜんぶひきつれて、対馬海峡わたつて、ひっぱつてきたの。

この上砂川の炭鉱はね、ほかのヤマ(炭鉱)

とちがってタコ部屋とか、そういうものはいつさいつくらなかったの。ぜんぶ平等。人権を無視することを非常にきらったの、このヤマは。

そのうちに終戦になったでしょ。さあ今度は大変さ。なんもかもないね。

(解放された)シナ人がね、非常に威張りだしたの。(それまで朝鮮人や中国人を使っていた人が)もうそれ、酷なことやった……酷なことってわけでないけどもね。係員の人たちね、もうみんな逃げたんだから、危いから、やられるから。自慢じゃないけど、私ひとりその係の中で逃げなかったの。ただしね、奥沢の朝鮮人が評判たてたんだ、三尾をやっつけてやるって、やつちゃうって。それをね、係の者が私にこっそり知らせにきたの。

柴田勝蔵さんの話

私 次に、上砂川中学校の太田省三先生の協力を得て、当時探炭夫として働いていたという柴田勝蔵さんにお会いすることができた。

柴田さんの話では、上砂川でもやはり下請け会社がタコ部屋を張っていたという。

柴田さん やはり下請けというかたちの中で大坑道を掘きくしていく場合にね、タコが使われたわけだ。おれたちが(昭和)十三年に来たときにも、七坑の掘きくでタコがおりましたよ。川口組でおりましたよ。現在の道会議員の川口常人ですか、あの人の親、いや爺さんですね。ここにいてタコ部屋を張ったわけですから。

私 柴田さんは昭和十九年以降、中国人を指導したが、彼らはタコ部屋と同じような待遇を受けていた。

柴田さん 本当に働いてくれる人の中から指導者を養成しなきゃいけないものでね。それで自分にあたる(配られる)おにぎり、二個ずつ日本人の指導者にだけあたるわけですよ。それをしかたがないから、自分は家へ帰ればイモでもなんでもありますが、あの人がたはないもんですから。指導する四人(の中国人)に半分ずつ分けて、食べさせなければならぬようなね。だから、おまえは馬鹿だなんていわれるわけね。

私 柴田さんは頭のいい中国人と友達になっ

た。

柴田さん 名前もフーミーチンというのは分るけれども、この人はほんとに頭がいいもんで。「あなたなぜこんなところに連れてこられたんだ」っていったら、「いや、ぼくらは別に来たくて来たわけじゃないし、兵隊でもなきやなんでもない。ただ日本軍に狩り出されて来てしまった」と。強制的なたちというのがね、それが実態だったんですよ。その中の三分の二はもう民間人なんです。それが本当にあわれであった。それで病人が出た場合でも、あまりいい待遇、いや待遇ちゅうか、見てもくれなかったというのが実際なんですよ。

おれたちも中国にこうして連れて行かれたら、こんなぐらいの食べ物で仕事なんかできやしねえなと思ったっていうの。

私 そうですね。自分がそうなることを考えたら。

柴田さん はいはい。とでもね、この人がたは言葉もわからないし、仕事も教えたって、そんなに覚えこむものでもないし、それでなくとも食いものが食いものだし。たとえば十トン(石炭を)出せといわれて五トンしか出

せなくても、なんだかんだいうなら、おれはいつでもやめるよ、つかかるもんですから。

金山正一さんの話

私 柴田さんに会って、会社側に反抗し朝鮮人や中国人に同情した人もいたことを知り、ほっとした。

北海道で民衆史の掘りおこし運動をしている小池喜孝氏に、父とおなじ上砂川で戦争中働いたことのある朝鮮人が音別にいることを教えてもらった。

しかし、この人は純粋な朝鮮人ではなかった。父親は秋田の宮大工で金山と言い、併合後朝鮮へ渡った。そのとき朝鮮の女性との間に生まれたのが、金山正一さんだった。

五歳のとき、父親と日本へ来たが、母親は一緒に来なかった。父親は来てまもなく芸者と再婚したが、彼女が金山さんをあまり可愛がらないことを心配して、朝鮮へ帰してしま

った。それ以後、父親と一度も会わないまま、朝鮮で生活した。

金山さん 向こうで(朝鮮で)学校に入った



ら、日本人をチョッパリ(ひずめ)っていうんだ。チョッパリっていうことは、足袋をはくでしょ。その足袋が二またになっているから、それでチョッパリっていうんだ。だからおれのことを半チョッパリっていうって、半分は日本人で半分は朝鮮人だっていじめられて

学校をやめて、だからおれは、一年生になっても学校へ行かなくなったの。

結局、父親と別れたしね。そういうことでおれも苦労して。こんど母親も死んじゃったし、一人でやっとなって、内地の自分の親の所へ行きたいという心があったから。三井文珠の炭鉱から募集があった、その募集について(昭和)十八年に上砂川に降りたんだから。

それで普通の日本人は三ヶ月の報国隊で来るんだよな。われわれも報国隊だけでも二年間だということ来て、二年たっても帰さないわけさ。それも腹いっぱい食わせない。もうブタと同じだ。おれの牛のほうがよっぽどましたよ。米が入ってるから。

私 落盤で足を怪我した金山さんの同僚が、仕事をしないとって、寮長の内田モトヨシに何度もヤキを入られた。

金山さん 何回もそういうことがあったもんだから、自分の首をカミソリで切った。リ・マンコウが首を切ったってワーワーさわぐもんだから、行ってみたらあちこち、十カ所に血がかたまっって落ちていた。それで今度、おれはもう、ぜんぶの朝鮮人に集合をかけたん

だ。そのとき、内田モトヨシが労務へ連絡して、労務ではこやつを殺すって鉄砲を持って来て、おれに向けたわけさ。おれは、よしっていうんで、炊事場から出刃(庖丁)持って来て、出刃で投げると鉄砲の玉と、どっちが早いかやるべっていつて向けたわけよ。そしてたら向こうは空鉄砲で脅かしにかかったんだ。それで逃げたわけよ。

それから今度は、こいつをなんとかしなければっていうんで、おれをタコ部屋に入れたわけだ。
(内田モトヨシにだまされて)いきなり警察の二階に上らせられた。滝川の。おれは内田モトヨシから聞きたいの。おれを叩いた警察がいま生きていれば、どこにいるのか。それをおれは捜したいわけさ。罪のなんもないものをぶつ叩いたんだから。とにかく剣道の棒ですごく叩かれたんだから。それでいきなりブタ箱を入れたわけさ。その時、三人いたんだ。一人は顔を憶えているから、見たら分かると思うんだわ。目がクチャクチャにくさったやつでね、メガネをかけたやつだったんだ。それを内田モトヨシに一回、いつか言うつもりでいるんだけど、おれも行く暇もないし。

それから朝鮮人の遺骨を返してないのがたくさんあるんだから。やつこさんがみんなやつたやつだからね。

私 それはどこにあるんですか。
金山さん ああ、どこにあるって、みんな投げてあるんだもの。沢に、何十人てほうってあるよ。

私 どこ沢ですか。
金山さん 上砂川の墓地の下。焼き場の下に沢があるの。

私 あ、千草台だ。
金山さん それでもう油をかけて焼いて。だから半身焼けてそのまんまのやつが、みんなもうアク(ゴミ)と一緒にずつと下に投げてあるんだからね。何十人て埋まってるから、そこに。

私 朝鮮の人でも、そういうめに会ったんでね。
金山さん うん。だから朝鮮の人ばかりだもの。それを全部、死んだやつ。

ま、あなたがたにいうけどね。釧路に朝鮮(総聯)支部ってあるんだ。それでも何回も来たんだから、おれのところに終戦になつてすぐ。上砂川の意見をさぐるのに来たけど、いつたらもうおしまいだから。ま、おれも自

分の親父の国だし、どっちにしても親の国だからいたくないし。そんなもう、いますんだことをいつたつてつまらないということで、おれは我慢したけど。知らないって通して、それですんだんだから。

私 じゃ、その時しゃべってたら、どうなっちゃったでしょう。
金山さん ああ、もう内田なんか、とつくにやられてるよ。そのままのもの。頭も焼けてないやつを投げたのがたくさんあるんだから。本家本元がシナから、朝鮮から来て、日本

という国はね、本当に血のつながった、な、日本人と朝鮮人なんだぞと。兄弟なんだぞと。それをなんでおまえだけ。歴史というものはね、ま、仏教はインドから来てるけれども。中国流れて、朝鮮流れて、日本に来てるけれども。本当の歴史はシナ、朝鮮、日本は……。

ま、日本ていうけどね、シャモっていうんだな。本当はアイヌが日本人なの。それを内地からぼつてぼつて北海道までぼつてつたんだから。そういうふうなシャモが、早くいえば昔兄弟が三人いて、おまえは朝鮮だ、おまえは日本だ、おまえはシナだ、というかたちになつて、こういうふうになつてきたんじゃないかと思うんだわ。それを知らない人間

は、そうじゃない、おれは日本人だつて威張つていうけど、アイヌとけんかになつたら、君は日本人じゃない、シャモじゃないか、おれが日本人なんだつて逆にやられるんだ。だからわからないさ、そういうことはね。おれもずいぶん音別へ来て軽蔑されてね。それをおれがいまの先生たちに、朝鮮人もアイヌもたくさんいるんだと。その子供たちに聞けばやはり軽蔑されて、おまえは外人だとかアイヌだとかつて。そういうことをいわないように、ひとつ教育してほしいと。わしも炭鉱で、こういうことで食うものも食わないで苦勞してきて、ほんとうは日本はこうなんだと、もう涙でるくらい切ないけどもね。

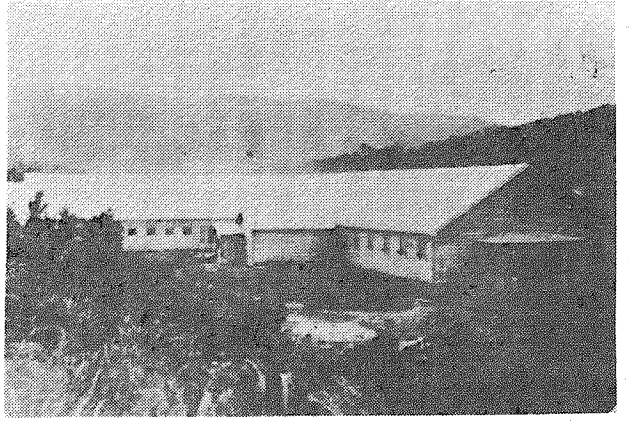
とにかくもう困る人を助けてやつたり、弱者を助けてやつたりするのが、これが本当の社会人。弱い者いじめは誰にでもできるんだよ。

だからおれは自分が泣いても、食う米がなくとも、困る人があつたらなんとかしてね。ま、たとえば信仰者が来たら、何宗教でもかまわないから、どうぞどうぞつてね。

ちようど日本語も覚えてきたころ、浪花節に行くべつていつたんだ。三門博だと思つたな。いやその、道楽息子が親からほうり出さ

れて荷物をたがえてかついで出ていくやつ。それでおれ、涙こぼして泣いたことあるんだ。そういう浪花節を聞いたよ。だからね、古いものみんな集めてるの。レコード。

(昔の浪花節のレコードを、大正時代の蓄音



機で聞かせてくれる金山さん)

蔡さんの話

私 北海道に来ていちばん最初に会った人、蔡晚鎮さんは、タコ部屋という状況の中でたえず抵抗しつづけた人だった。そしてその結果、どのようなことを考えるようになったのか、そのゆくえをぜひ知りたいと思ひ、もう一度お会いすることにした。

私 蔡さんのいらしたタコ部屋は、朝鮮人がほとんどだったんですか。
蔡さん うん。タコはね。それで十六年の春になつたら内地から団体が来るんだよな。それで、来たのを見たらほとんど大学生さ。

だから、それを見れば、われわれ朝鮮人ばかりでなく、日本人も被害者がたくさんあるよ。
だから労働者はただだまされて来たんだけど。幹部は労務者をおさえて、叩いて使う立場なんだから。

私 人を押える力がありそうだったという人が、幹部にえらばれるわけですね。
蔡さん そう、度胸もあつてね、人間殺すの

もへつちやらにする者が幹部になるわけさ。誰でも幹部にならんよ。管理者、経営者が見たら、この者はものになるというものは呼んできて、まず幹部になると。そのかわり好きなように遊んでこいと。組から金やって、女郎屋、今はそういうのないけどね。だいたい一週間ぐらい寝泊りして、そういう生活ばかり。だから一年に多く殺す者は四、五人殺すんだよな。叩いて殺したり、場所によってはアイクチで殺したりね。いよいよよきかない者はね。

だから人間殺すの、そうむずかしくもないし、簡単に殺したな。私の場合は力もあつたし、度胸もあつたし、おっかないものなかつたからね。相手を殺すか、こつちが殺されるか、そういう考えばかりで通してきたから生きていたけど、あきらめてたら死んじやつたな。何回もあきらめたことあつたけどね。

まあ、死のうと思つても死ねないから、逃げて外で運動しようと思つたが、つかまつて逃げることもできない。それから今度、いろんなことを考えても、これもだめ、あれもだめだったから、このまま時期をみようと思つ間をかけて何かのチャンスをつかもうと思つているうちに、今度幹部にするつちゅうわけ

さ。それで、幹部になったら自由になるからタコ部屋から逃げればいいんだと、こういうふうには見るけどね。逃げたりよそへうつたりしたら、今まで苦労したのがむだになるからね。逃げるとか会社を変えようとかは考えられなかつたんだよな。

それで私が幹部になつてから、ぜんぶもう部屋の者と団結して、団結したからつて別に前みたいに団結して相手を殺して、火をつけて逃ようとかつていう考えは、もう通つてきたから。今度は絶対逃げないこと。おれが責任もつてる人夫が逃げたり、それから仕事の能率が上がらなかつたり、そうすれば結局おれの信用がなくなるわけさ。逃げないことには、私なんでも大きいことをいえる、ね。おれがつつこまれるのでなく、逆につつこむような立場になつてこそ、私の考え方が達成するわけさ。やつぱりそれがね。ま、おれは朝鮮人ながら日本人のことを、自分の命までかけてやることない、やらんでもいいわけさ。だけでもやつぱり人間というもののは、そこなんだよな。自分の立場がつかいからといつて自分ばかりバタバタしないで、このつらいめを相手にもね、相手にもある程度考えてくれれば、すべてが平和にいくんだよな。

んことには解らないよ、と、おれはいうんだ。
父の話

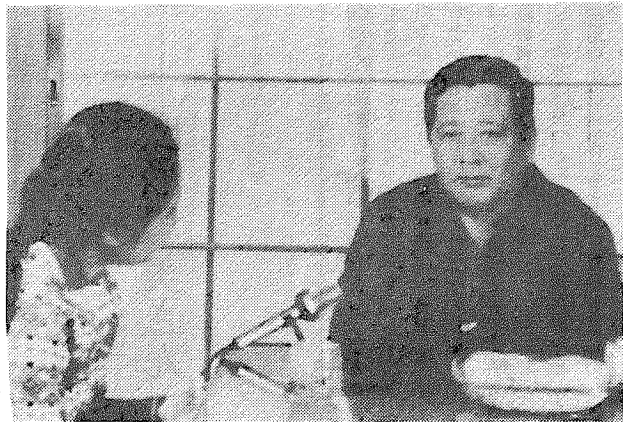
私 私は東京へ帰ってから、父に北海道で撮影してきたフィルムを見せた。

蔡さんや金山さんの話を聞いて、父はどんな感想をもつだろうか。

私 話を聞きにいったら、朝鮮人でもやつぱりひどいめにあつて。それで朝鮮人だからつて叩かれたりしたこともあるみたいなんだよ、どうもね。

父 やつぱり戦争がさせたんだらうね。なめられちゃうと、どういうことされるかわからないっていうんで。だからもう、頭からおさえつけなくちゃつていう意識が強かつたんじゃないの。

だから、ちよつとでも逆らつたりすると、つれていつて半殺しにするとか、なんでも服従するように、力で押さえつけようとするのが、その当時のあれじゃなかつたのかね。私 要するに理屈にあわなかつたのかね。から、力で押さえる以外になかつたのかね。父 そうだね。だつて、まともにやつてたら



悪いことやつてたわけですよ。なにも一所懸命働く人をぶんなぐつて、もつとやれ、もつとやれつて。食いものが悪い、いやな人が悪いといつて、交渉にいった人は、お前は生粹だど。お前みたいなのはいい方がいい、いると皆を先導してああでもない、こうでもない

だからそれを考えたらね、ま、やめて自分だけよくなるのかという考えはもうなかつたんだしね、あくまでもこれをたたいてね。たとえば朝鮮人と日本人とか区別なしに、人間として、これはたたいてつづさんことには。これは、どうてももう人間社会としては、ほんとうはやるべきじゃないんだもんね。

いまはもちろん、それは考えられないけれども、昔の時代もね、ま、いま考えてみれば、そういうふうには厳しく使わなかつたら、ああいうふうには厳しく使わなかつたら、ああいう突貫工事やなんかはね、いまみたいに機械があるわけじゃない、みんな筋力でやるんだからね、ああいうふうに使わなかつたら、なかつたかもしれない、北海道の開拓・開発はね。だけでも、ま、行くところではくはいうんだけどもね。北海道の開拓・開発はね、先輩の人らは命かけて体張つてやつたあとに、今日このようにみんなが文化生活してるのを、日本の皆さんもね、こういう犠牲になつた人の気持なりに感謝を持たなかつたらだめよと。

そして過去をね、歴史をある程度知らなかつたら、ただ北海道は、道路ができた、トンネルができた、ダムができた、これがもとからあつたんじゃないつてことを、これを掘ら

いつていうから、そういうところ(タコ部屋)へ連れていつちやうとか、ね。

向うは向うの、そういう規則もあるだろうし、私らはやつたことしかわからないでよ。ぜんぜん見えないことだし、そういうことは聞いてないし。

だから、あの人たちが話したことは事実なんだでしょうね、当時あつたこと。

私 じゃあ、ああいうふうにされてたんだつて、わかつたわけじゃない。それでなんとも思わなかつた。

父 なんとも思つたと思わないとかいつたつて……。

私 ああ、そうなんだなつて、思うだけ。

父 うん、そうだろうね。こんなこともあつたのかなつて。昔のことだし、あの人たちを知つたわけでもないし、そういうことを向こうの人が話して、そういうこともあつたのかなつて。

私 ……そうかア。

私の映画づくり——広瀬里美さんに聞く

——この「お父さんの戦争体験」は、大学の卒業制作だときいたけど、みんながこいうのをつくるんですか。武蔵野美術大学の映像デザイン科でしょう。

——ええ。私の先輩のひとがすごくいいドキュメンタリーをつくったんですね。「遊ぶ、子どもたち」っていうんですけど、それを見て、ああ、学生でもこんないい映画がつくれるんだなと思って……。ともかくドキュメンタリーをつくってみたいというのが最初で、なにをつくるうっていうのは、ぜんぜんなかったんです。なにか題材になるものはないかなどウロウロしてたときに、母から「お父さんは炭坑にいったんだよ」ということをきいて、いろいろききだしていったら、そこに

朝鮮人がおおぜい働いていたということができて、そういうことから、すこしずつ歴史の本をよんだり、朝鮮総聯の「受難の記録」ですか、そういう映画を見たりするなかで、すごい問題があるなということが、だんだんわかってきたんです。

その映画をつくったひとに相談したら、北海道の小池先生に言えば、掘りおこしのしごとをやっているから、なにかわかるんじゃないかとおしえてもらったんですね。最初は、上砂川にいたことのある朝鮮人ということで調べていったんです。そのひとの体験と、お父さんのいつていることを対比させてみようというので……

——そういうことを思いついたのが、去年

の秋ごろですか。

——九月ごろですね。撮りはじめたのが十一月、十二月の末にもういちど北海道にいった、二月に最後のお父さんのシーンを撮ったんです。

——十一月は、アタマのお父さんのシーンから撮りはじめたわけ？

——あそこはあとからくつつけたんです、じつは。それに、最初にとつておいた声をかぶせたんです。

——機材やなんかはどうしたの。

——ぜんぶ学校で借りたり、友だちのを借りたりして……。フィルムは自分もち。カメラマンは油絵料のひとで、私はぜんぜん面識がなかったんですけど、映画を撮ってみたい

といつて、撮影にでかけるすぐまえに知りあつたんです。

——だいた費用がかかるでしょう。

——旅費がかかるんです。カメラマンのひとに旅費をださせるわけにいかないから……。旅費だけで三十万くらい。お父さんにだしてもらって……。

——それで映画ができあがつて、上映はどういうふうにやってるんですか。

——それが大変なんですけど、つくってるあいだに朝鮮大学の学生と知りあつたもんですから、それで朝鮮大学にもつていったりとか、東京で協力してくれたひとたちに見てもらったりとか、まだすくないんです。あとは北海道に今年の夏にいつて、手つだつてもらった方たちにも見ってもらったんですね。蔡さんなんかもよろこんでくれて、掘りおこし運動のなかで、北海道でも上映会をやりたいといつてくださってます。

それから金山さんなんかは、自分がすんでいた上砂川が画面にうつると、それだけで無邪気によるこんじゃつたりして……。ちょうど北海道に台風がきて、三日間もお世話になつちやつたんですけど、金山さんつて、嘘をつくのがきらいで、とつても話すぎなんです

ね、それで毎晩、「よし、今晚は政治の話しましょう」とか、もう毎晩なんです。金山さんは古物商でしょう。すぐそばに仕事場があつて、泥棒がはいるといけないっていうんで、そこに寝とまりしたりしてるんですけど、そこを「別荘」とよんで、むかしのランプに火を入れて、古いレコードをかけて、一升瓶をおいて……そこに私をつれてってくれるんですね。

——撮影のときは、はじめはどうするんですか。やつぱり、お父さんが上砂川ではたらいてたところから、きりだすんですか。

——ええ。ぜんぜん面識がないから、はじめは手紙や電話で意図を説明して、会つてくださいとお願ひするんです。その上で、はじめから相手にマイクをつきつけるわけにいかないもんですから、会つてからもいろいろ話をするんですけど。

——これからの上映は？

——いまパンフレットをつくってるんですけど、シナリオと取材の経験と、それからこいういう歴史を知らない若い人たちに見てもらいたいんで、ちよつとした説明を入れて、それをくばってみようと思つてます。

——いままで見たひとたち、あなたと同年

代のひとたちの感想はどうですか。

——こういう歴史を知らなかったのをおどろいたというのと、最後にお父さんを問いつめるというか、かなり責めるシーンがあるんで、親子のあいだでそういうことをやるのは自分には納得できないとか、そんなこともいわれました。

——でも、そんなに問いつめるという感じじゃなかったよなア。

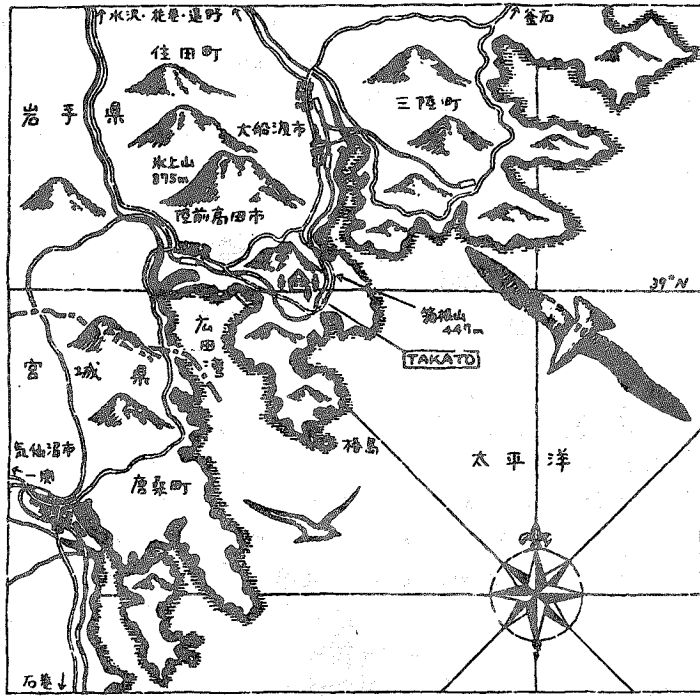
——ええ、でもそう感じるらしいです。

——お父さんご自身は、わア、責められたと思つてらつしやるのかな。

——そうらしいですよ。はつきりとはいわないけど。父の場合は勤労報国隊というのでいったんだけど、その当時の若い人たちが、本当にどういう気持でそういうものに参加していったのか、よくわかんなかったから……。父なんかはまだ子どもだったから、そんなにはつきりとは意識していなかったと思うんです。

——この映画を上映したいときは、どうすればいいんですか。

——手紙か電話で、私のところに連絡をしてください。住所は、東京都墨田区亀沢二の二二三の六、電話は、〇三(二六二五)六七八五です。



てくれます。
働く場所のすくない。だから自分が学んできたものを生かす暇がない。この小さな地域で、惜みながら、それを受け入れに生活している青年たちを見ると、私自身のこの土地での生き方を小くめて、さまざまなることを考えさせられます。
流れる雲、小さ渡る風、青い海、ヒヨ鳥、柳、夜空の星、太陽。この美しいものたちのなかで、私になにができるだろうかと考えます。
都会からきて不便だろうと、たくさんの野菜をどけてくれる農家の人たち、原発反対をひりひりやっていた青年、若いミュージシャンによる、日本のジャズのルネッサンスをめざして、ライブハウスをひらいている青年など、小さなこの町にも、さまざまな人が、さまざまな生き方を展開しています。

夏祭りの終わった町には、帰郷した人々を^迎え、お盆まえの^ご

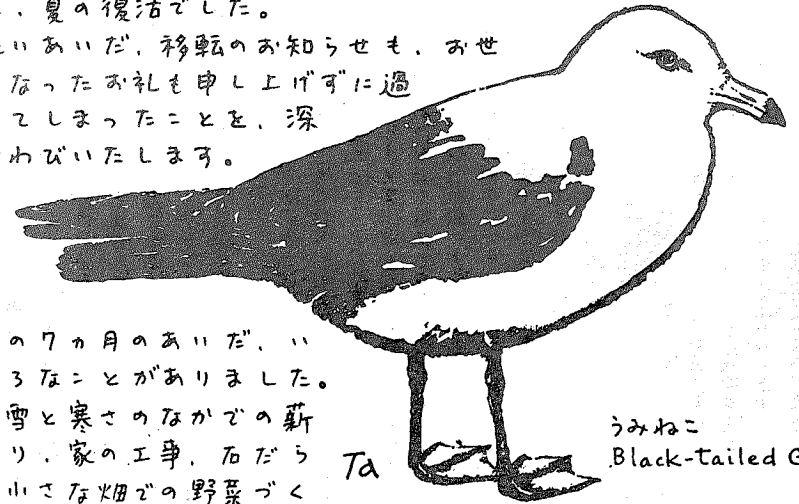
暑い夏、お元氣でお過ごしでしょうか。

寒い冬のさなかには、岩手の山にかこまれた、海辺の町に移ってもう7ヵ月の日が過ぎました。

部落の古老も、三十年ぶりだというほど風の強かった冬のおと、霧が毎日海から流れてきて、太陽にも見はなされたような、寒い春、寒い初夏とつづき、この年もひどい冷害になるのではなにかと、心配された田圃も、やっと夏らしい日差しとなって、稲もずいぶん伸びてきたようです。

太陽が、もう一度だけ、私たちに考えるときをあたえてくれたような、夏の復活でした。

長いあいだ、移転のお知らせも、お世話になったお礼も申し上げずに過ぎしてしまつたことを、深くおわびいたします。



うみねこ
Black-tailed Gull

この7ヵ月のあいだ、いろいろなお知らせがありました。風と雪と寒さのなかでの薪づくり、家の工事、石だらけの小さな畑での野菜づくり、町の人たちとの展覧会、女川原発への小旅行、etc……。

7月には「原爆の団」の展覧会が盛岡でひらかれ、なつかしい丸木俊先生たちにお会いすることができました。

「官沢賢治旅行記」の公演の旅をしている、68/71赤いキャバレーの人たちとも会うことができました。

香代は、若い人たちにスタンドグラスを教え、みんな展覧会をひらきました。

このあいだに、私たちの家とたくさんの方が訪ねてくれました。そのなかには、リヤカーを引いて北海道まで、玄米宇宙の旅をする青年や、とてもいい音楽をもつて、コンサートの旅をつづけている、若いミュージシャンたちもいます。

そしていま、この家には、土地の若者たちがたくさん遊びにき

「スルメが いっぴやあ釣れで どんどん どんどん あがっ
てくるのっさあ。

あがってきたスルメあ 耳ふらげて あたりほどり キョロキョ
ロッ と見まわすのっさ。

そのスルメめんこくて ‘なんと おめあさまも釣られでさや
したが?’ って語ると スルメあ キュッ と泣いて 耳っこパ
タッと とびで 船艙さ トボッと落ちていぐのっさ。」

この小さな、しかし美しい土地へ、みなさんどうぞあ出かけく
ださい。

移住する私たちを、ほげまし送ってくださる、みなさんの友
情に、心から感謝いたし ます。

どうぞ、お変わりなく、
さい。

いつまでもお元気で、ゴ活躍くだ



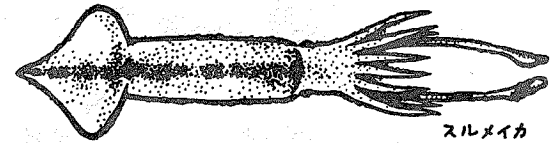
1981年・夏

Ta

岩手県陸前高田市小友町茗荷128 〒029-26
TEL. 01925-6-4188

高頭祥八・香代

わめさが固まえます。お盆が過ぎれば、間もなく秋風のたつ季節
です。北、遠くの外には、イカ釣りの船の漁火がたくさん見えま
す。(春から漁のすくなかった海で、スルメイカがたくさんとれ
ています。しかし、スルメイカのヒれる年は凶作といわれている
のどすが……。)



スルメイカ

すしイカの話をししましょう。

三陸の沿岸漁船漁業の中心は、イカ、サンマ、メヌケ、タラ、
コウナゴなどですが、今年は春から水温があがらず、コウナゴな
どはまったく漁がありませんでした。

やっと7月末になつてスルメイカの大群が沿岸に現われ、毎夜た
くさんのイカ釣り漁船が、漁火をともしてイカを釣っています。
この漁に出る船は15トンから19トンクラス。煌々と海に映える漁
火の群は、この地方の夏の風物詩のひとつになつていますが、燃
料油の高騰で、漁業経営に占める燃料費の割合が、4年前の16%
から昨年は30%となり、今年はあいつぐ値上げで、もっと悪くな
つていっているわけだ。

海へ出ても漁がなければ、出た小んだけ赤字になるわけで、み
んな省エネ操業をやっています。ですから漁に出るのは、トウチ
ヤンヒトリか、カアちゃん二人です。

沖へ出て発電機をまわして集魚灯をつけ、イカ釣りのロープを動か
かせば、そこにイカがいたら、あとはどんどんあがってきます。船
艙に落ちていきます。ですから機械が順調に動いていければ、トウ
ちゃんヒトリと酒をのんだり、マンガ本を見たり、または暗い
海のうえで、集魚灯のライトをあびて考えごとをします。
(しかし、本当はそんな楽な仕事ではありません。海には波があ
り、風の日も、雨の日もあります。)

いっしょう、夫婦二人ごみの方では、イカ釣りロープのセットや
う、心優しいカアちゃんも、いっしょうけんめいトウちゃんを助
けます。

そんなカアちゃんヒトリが、みんな話をしてくれました。

自由ラジオその後

八月二十七日、水牛楽団コンサート「サンチャゴに歌が降る」がおわり、中野の大衆飲み屋でやった打ち上げ会の席で——したがって、やや旧聞に属するが——工藤幸雄さんと久代さんご夫婦に、ポーランドのラジオやテレビはどうなっているのですか、自由化のきざしはなきにしもあらずなのですか、と質問をこころみた。数日まえに、水牛通信「自由ラジオ」特集号の編集をおえたばかりのころだった。

ポーランドの現行憲法は国民に「言論、出版、結社、集会の自由」を保証している。しかし、この約束はまったくまもられることなく、ラジオやテレビどころか、しばしばガリ版の器械さえもが押収された。だから「連帯」

労組のたたいは、情報の国家独占にたいするたたいでもあったのだと、すでに工藤さんはいくつかの文章で強調している。

——一九八〇年八月以来のポーランドでは、民衆紙と呼ぶべき、数え切れないほどの、いわばミニコミ形式の定期刊行物が簇出している。多くは組合の支部機関誌だ。外国人観光客の宿泊するワルシャワ中心街のホテル従業員までが自分たちの小新聞をもっている。新労組「連帯」は近く週刊の全国誌「ソリダルノシチ」を発刊することになっているし、まだ実現していないが独自のテレビ番組を制作する権利さえ与えられた。言論の自由を定めた憲法を空文のまま放置

したのが体制であつたとすれば、その条文に生命を吹きこんだのは民衆自身であつた。（「世界」一九八一・三）

だが、ポーランドにおける自由ラジオや自由テレビは、そうかんたんには実現しないだろうというのが、そのときの工藤さんたちの答えだった。当然、そうにちがいない。それは私にも予測できる答えだった。ところが、ご夫婦の話はそれだけではおわらなかつた。予測に反してといつてもいい。あのネ、そのかわりにいま、連帯はカセット新聞をだしてるのよ」とすぐに工藤夫人が語をついだ。国営ラジオやテレビのうちに、一日に数時間、連帯の自主番組をおしこむ。それがむず

かしいことは、はじめからわかつていた。だからこそ「すべてか無か」ではなく、いまの状況のなかでも実現できる具体的な出発点として、今年のはじめに、連帯の人たちはカセット・テープによる番組づくりを開始した。ダビングの機械は、西ドイツの労働組合がよかった。それで何十本ものテープをつくり、全国の連帯支部に配布する。支部ではそのテープを、毎日、きまつた時間に、有線ラジオやスピーカーで放送する。しかもカセット・テープには検閲がない。つまり、国有の電波ネットワークから拒まれたところすべてがおわってしまうのではなく、かの地では、手もちの道具によって未来をたぐりよせ、自由ラジオの力の何十パーセントかを早くも実現してしまっているというのだ。

性能のいい機械が与えられた、ネットワークも解放された、とする。そんなことが起りうるはずはないが、かりにそうなつたとして、さて、なにもやるべきがない、というのがわれわれの状況だろう。私はといえば、ニッポンにおける自由ラジオ実現の可能性についていくらか調べ、こりやアこの国ではダメだ、やるとすれば玉碎作戦しかないぞと思いはじめていた。そのぶんだけ工藤さんたちの話は

印象的だった。やつらはしぶといなアと舌をまたいた。

しばらくたつて、そのカセット新聞の現物をきくことができた。なんととはなしにキメ細かなものを予想していたのだが、実際は、まずあたらしくつくられた歌が何曲かつづき、それがブツリとおわつて、なんの説明もなしに、政治キャパレの寸劇がはじまるといった、泥のついた大根みたいなごついろもんだつた。（私は知らなかつたが、前記のコンサートで福山敦夫が番外としてうたつたポーランド製の新曲は、じつはこのカセット新聞の第一号におさめられていたのである。水牛楽団も結構すばやいではないか）。

ごついののはポーランドの労働者ばかりではない。われわれが自由ラジオに関心をもちはじめたのは、ある日、なんの気なしにテレビを見ていて、長距離トラックの運転手たちのラジオ通信（CB）への規制が強化されているというニュースにせつしたからだつた。

トラック・ドライバーたちのCB利用は自然発生的にはじまつた。したがつて、最初はバラバラの個人的趣味みたいなものだったのだが、しだいに組織化され、いまでは各所に

いくつものネットワークがつけられていられるしい。そのことを知つて、「未組織労働者が自分たちを組織していくための自主メディアがCBなんだよ」と、粉川哲夫さんが電話をくれた。いま、どこそこで交通取りしまりをやつていふというふうな実用情報の交換もふくめて、電波による相互のつながりをたしかめながら高速道路を走ることが、かれらにたつての生きがい、ほとんど唯一のたのしみになつていふのだ。その電波を国家がかれらからとりあげようとしていふ。バラバラに生きてきた人間が、なんらかの手ごたえあるつながりをつくらうとして、ようやくきつかけをつかんだ、そのすべてをぶつつぶそうとしていふ。故意に、しかも徹底的に。それが今回のCB規制の意図なのである。

電波妨害による「公共の利益」の破壊——それが弾圧の名目にすぎないことは明白だ。こんにちの技術水準をもってあれば、CBの電波程度で飛行機がおこちるなどという事態は、らくらく避けられるのだから。トラック・ドライバーたちは、どこまでかれらのしぶとさをつらぬけるか。自由ラジオ運動はかれらの手によつて、すでに日本でもはじまつていたのだと考へたい。他人事ではない。

沖縄からの季節工

——日産の下請でしょ。

そうね、下請っていても部品供給じゃなく、日産車体の一角に工場があつて、生産工程の一部を請負っているかたちなの。

基本的な工程が三つあるわけですよ。車体課と塗装課と車輛課ね。車体は組立て、溶接なんかを中心にやる。車のパネルとか、そういうものは、もっと下請のところからはいってくる。塗装のあとは饜装。ガラスをつけたり把手をつけたり、ボディのセミトリムといつてるけど、そこでぼくらはおわり。おわったやつはそのまま日産車体の工場に流されていくの。

——日産車体は何をするの？

じゅうたんを敷いたりライトや座席をくつ

つけたり。最後にエンジンをつけてできあがり。車種はキャラバン。あのマイクロバスみたいなやつ。

——何人ぐらいいるの？

現場の労働者は四百名くらいかな。三つの工程のほかに、保給課、製造管理課とかいろんなのを全部あわせてそれくらい。ぼくなんかのラインは百名ちよつとじゃないかな。

——そのうち正社員は？

半分です。あと半分は季節工。

——季節工って六カ月？

いや、三カ月の人もいれば、一年位そのままの人もいるし。六カ月契約でいったんやめて雇用保険の一時金をとってまた帰ってくる、というパターンがむしろ多いのね。一番カネ

になるわけ。

六カ月で仕事やめるでしょ。そうすると出かせぎ労働者向の失業保険がすぐでるわけですよ。五十日分一回にまとめてポイント。二十五、六万くらい。それでまた帰ってくる。

継続しちゃうとそれ、とれないからもらったくないでしょ。

——給料いくら？

エーッとな、一日六千八百円。それにつくのは皆動手当くらいか。それも月に95%の出勤率だから二日以上休んだらでないわけよ。

それで月に名目賃金が二十三、四万ね。それに税金がガバツとつく。食券代がとられる。なんだかんだとさつびかれて実際にうけると給料は十八万円前後。五月に連休があつたで

しよ。あのときは十六万にみたなかった。

交替制で残業は毎日一時間つくから朝八時から夕方六時まで。一回仕事はじめたら休むひまもなにもないわけだから、仕事のわりにね、手取り十七、八万というのはぜんぜんよくないです。

昼勤と夜勤は一週間交替で、夜勤だと夜八時から朝の六時ごろまでね。どうしたって体の調子がおかしくなるね。しんどいな。

——朝八時にラインにはいるためには何時におきる？

会社の食堂で食事をするためには寮を七時にでる。食事してお茶の一杯ものんでラインにはいる。ところがそのままポツとはいってラインのスピードについていけない。だから15分くらい前にラインについて、物を準備したり。たとえば両面テープで貼ってあるやつはいったんはがしておくとか。そうして準備しないと間に合わない。その15分はタダばたらきをしちゃう。

——どういう労働をやったんですか？

ぼくのところはトリムの第一工程で、まだレールにのっかってないの。塗装課からクルマを自分たちでひっぱってきて、屋根について

るルーフ棒をいったんはずす。エンジンカバーもはずして、座席に把手をくつつけて、ハーネスついていて、車内のランプがあるでしょ、その配線やつておしまい。

だから基本的には二工程ね。はずすと配線。

——それを何人で？

ぼくひとり。はいったときは一日百九台だった。一台4分50秒ついていったかな。六カ月たつてやめた時点で一日百二十八台。一台4分くらい。

——そんなに上がったの？

キャラバンという車種は売れて売れてしようがないんだぞうだ。つくつてもつくつても間にあわない、と。

百二十八台っていうのは生産ラインの限度ほぼぎりぎりですよ。まだあげるつもりでいるらしいけど、生産はあがっても給料はおなじだから、十九台分ただではたらかされたわけですよ。

一台4分。仕事やつてて手がなかなか追いつかないわけね。だんだん慣れてようやく追いつくようになるよ、また一台ポイントふえちやつたりしてき。結局おなじことね。いつまでもたつても追いつけられる。

——朝から休みなしに昼までいくの？

いや、10時に10分間休みがある。12時には一時間、3時に10分間。

——昼はまた会社食堂ね。

もちろん。ほんと、ひどい食事なわけね。ぼくがはいったところは冬場だったでしょう。とにかくおかげがつめたいわけ。夏だとあまり関係ないけど、冬場にあのつめたいわけがでてくると、そりやもう、ぜんぜんまじわいけだ。つめたいコロッケなんて食べたものじゃないよ。朝なんか毎日のようにコロッケ食べるのね。季節の人で、こんなコロッケ食えるかってコックに投げつけてクビになつたやつがいたんだよね。それだけ食事に対する不満はつよいですよ。

——夜は？

夜もほとんどの人は会社の食事をたべる。寮で自分でつくってたべる人も何人かはいますよ。昼は会社でたべるけどね。

——コロッケは食堂でつくってるの？
——そうそうそう。

——それでもつめたいの？

結局人数が多いから何時間も前からつくって、保温装置もなにもないでしょ。たべるころにはつめたくなってる。

——朝昼晩でるのはきまつてる？

一応メニューは毎日ちがうことになつてくけど、朝と晩はしょっちゅうおなじものだね。ただ、ほかの自動車会社とくらべてそんなにわるくはないというはなしだから、ほかのところはもっとひどいんじゃないかな。

——寮はどんなとこ？

季節工の場合は四カ所あつて、一カ所は鉄筋の四階建、歩いて五、六分のところね。ほかのところは木造のゲタバキアパート、自転車で10分ちよつとくらいかな。定員38名で、一部屋6畳一間に2人ね。台所もトイレも共同じゃなくて部屋のなかについてる。そういう点で一番住みやすいって評判だった。おなじ部屋の2人はたいてい反対班になつ

て。ぼくが仕事をしてるときはもう一人は部屋でねてる。ぼくが帰ると、すれちがいにその人が仕事に行く。おなじ部屋の人と顔あわせるのは通勤の行き帰りと、休みの日くらいですか。
下請っていうのはね、日産車体とか日産自動車とか、本社よりは、仕事の内容や食事とかいろんなしめつけも、むしろラクなわけ。
昔、日産自動車でアルバイトやったときは、身分証明書みせない会社に入れてくんかったし、会事もちよつとはやくいくと追いかえされたしね。労務管理が下請にいくほどルーズになるわけね。
ただ、正社員の給料はちがうみたい。季節工はどこでもおなじだろうとおもうんですよ。正社員の夏季一時金は、日産自動車は年間協定で六割ね。日産ディーゼルと日産車体、これは五・八なんです。うちの会社は五・〇、うちにおさめてるもつとちいさい会社は四・八くらいなの。日産自動車グループのなかにおける会社のランクで全部きまつてるんだね。
——一応、交渉してきめるの？
組合の役員は大体職制になるわけだから。指導員から組長あたりまでね。一般の労働者

やったら生産時間を短縮できるとか、そういう提案だね。
三カ月に一度のわりだったかな、だれそれがどういう提案をして何級に認定されたってことがパットと貼りだされる。ほとんどは努力賞とかアイディア賞とか、1級から10級まであるうちの7級とか8級とかで、それはあまりよくないやつなの。4級とか5級は一年に一べんあるかないか。
賞金自体はたいしたことなくても、会社にとってプラスになる提案をしたやつは出世コースのついでいくんだよね。出世ついでついでついでい組長ぐらいなんだけど。提案制度によって生産制をあげるだけではなく、一種の勤務評定でもあるんだね。だから指導

員とか組長とか係長になつてるやつは、すごくそまじめなやつだね。
正社員のなかにはひとり提案を専門に査定してるやつがいる。提案があると、そいつが提案用紙をもつてきてき、ぼくらが仕事してるそばでじつとだまって見てるわけ。最初なにか実際の仕事のなかで応用できるものなのか見てるわけよ。ときどきはストップウォッチもつて、たとえば4分30秒でやることになつてる工程が4分20秒で終つた、だとしたら4分20秒を基準にしちやおうかつてことまでやるみたいなんだね。
結局は提案制度やればやるだけ仕事はきつくなる。そういうかたちで自分自身のクビを

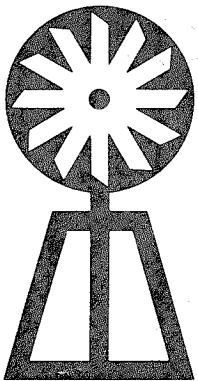
は正社員でもほとんど関係ないね。組合の掲示板になんか貼つてあるだけで。ぼくら季節でしょ。組合というのはぜんぜん見えないわけね。
一度こういうことがあつた。冬場、季節工にフロ手当つてのがついてた。ものすごくさむいでしょ。会社でフロにはいつて寮に帰るとひえちやつてカゼをひく。だからフロ手当をつけて、近くの銭湯へいきなさい、と。
ところが春闘の団交のなかで組合が、なんでフロ手当が季節だけなのか、正社員にはついでないじゃないか、だから季節にもつけない、と要求したらしいんだな。本来なら季節についてるんだからオレたちにもつけると要求するのが組合なのにね。それでフロ手当がなくなつちやつた。
組合掲示板にはスローガンがいろいろ貼つてあつて、「もう無理とおもう心に再挑戦！」なんて。それこそもつとはたけ、もつとはたけ、というスローガンなわけ。

しめていつてる。
——季節工と正社員はどうちがうの？
季節の側からすればね、こんな流れ作業の腕がいくらあがつたところで、一步工場の外へでたらなんの役にもたない仕事だね。朝から晩までおなじことをくりかえすだけで将来の展望なんてなにもないわけでしょ。こんな会社によくいるなあ、はやくおさらばするほうがまだまともだよつて、これが正社員に対する見方ね。正社員のほうは、どうせ季節なんてあふれものだっていう感じで見てるから、正社員と季節工の間で休み時間におしやべりすることもあんまりない。
——はたらいっている場所は？

歴史の荒波をつらぬき未来の扉をおしひらけ

三里塚

たたかひの暦



絵/丸木位里
デザイン/栗津 潔

発行/三里塚闘争連帯労働組合
協力/三里塚芝山連合空港反対同盟

問合せ

三里塚たたかひの暦企画

代表 前田俊彦

東京都新宿区荒木町3-3 駒ビル304

TEL 03 (355) 4320

三里塚闘争連帯労働組合

TEL 04797 (8) 0100

B2 カラー 地図付2枚組 ￥1000

おなじです。全体としては正社員のほうがラクな仕事だよ。いろんなチェックとかね、あちこち歩きまわっておくれているやつを助けてみたり、そういう仕事は全部正社員だね。

——そういう歩きまわる仕事はなんて呼ぶの？

べつに呼び名はない。

熟練を要するような仕事も正社員です。ただ正社員がもたない。すぐやめちゃうわけだ。この前も新入社員が60人くらいはいたのかな。高卒と大卒と。高卒の男たちが50人現場にはいる。それが一年したら80%はやめちゃうんだそうだよ。

夏休みにはいるでしょ。8月1日から10日まで休みで、新入社員たちはみんないなくなると帰る。10人のうちもどつてくるのは3人かそこらで、あとはそれっきり。

ところが、夏は学生のアルバイトもバンと採用する。それがへったところになると、東北からの出稼ぎがふえる。それで人数がたまたまれるわけですよ。春になると東北の農民たちが帰る。すると新入社員が募集される。沖縄からの季節工はずっと持続して一定数いる。だからサイクルはうまアくつながられていくわ

ね。

——季節工でも途中でやめた人もいる？

そりやけつこういますよ。ぼくとおなじ日にはいった人は13人いた。それでぼくとおなじ部屋になった人は3日でやめたね。2人が1週間でやめた。もう1人が3カ月くらいして、もう体がもたないということをやめた。もう1人、塗装課のやつが1カ月くらいして休み時間にクルマのなかでこっそりシンナーをすって、それがみつかったね。クビになるやつもけつこういるみたい。でも会社が発表するわけでもないから、いつの間にかいなくなっている。やめるときには13人のうち7人くらいしかのこつてなかったわけかな。

ぼくのすぐそばで働いてた新入社員の場合は、就職するとき二交替制勤務だということもぜんぜん言われなかった。週休二日制だしかな言われてない。一応基本的には週休二日制にはなっているけど、隔週でなかば強制的な休日出勤のがあるんですよ。そういうことで、かれは家に電話したんじやないかな。おやじさんから会社に抗議の電話があったらしいね。

——しかし、親にいう年なのかな。まだ十八とか十九だからね。それに最初の

——季節工はどうするの？

食堂は3階にあるわけね。その階段をのぼりきつたところの壁が石膏ボードでできて、安全靴でけつとばしたらすぐ穴あくわけ。だれかが穴あけたんだ。そしたらあれよあれよという間にみんながババババツと穴あけちゃった。会社がガムテープはってペンキぬつてなおすんだけど、その日のうちにまた穴があく。それがくりかえされてね。五、六メートルの壁がめちやくちやになった。最後に、だれもない日曜日に工事やって、月曜に出勤したら全部鉄板になった。

るんだそうですよ。トヨタが沖縄ではなかなか人を集めきれない。トヨタのほうが仕事もつとくつて給料もやすいって評判でね。残業時間がすくないせいらしい。

季節にいく人たちは、半年ガマンすりやあいいんだから、仕事がつくたつて、受けるカネが大きいほうがいい。残業時間がへつてこまるつていう人もいっぱいいるわけよ。

うちの会社に、いま沖縄からの季節工が二百人くらい、となりの日産車体にも二、三百人。

——じゃあ工場のなかは沖縄って感じ？

そう。沖縄の方言はとびかつてるしね。——沖縄ではどういうことをやってた人たちなんだろう。

東北からの季節工は農民でしょう。自分のたんぼや畑があつて農閑期にくる。沖縄からの季節工は生産手段がない。まさに失業者がくるわけ。漁業やつてた人もいたし、学生もいるし。学生の場合は半年くらい休学して、こつちにきて学費かせいで帰つてまた大学へ通つてやつね。そういうものもあるし、借金をかえさなきゃならんというやつもある。

沖縄は6%前後の失業率ですよ。それはおもてにでた数字で、潜在的な失業者もかん

就職だろうから報告するんじゃない？

正社員なんか休日出勤を拒否するやつはけつこういるんだね。土曜日の休日出勤の場合だと木曜日あたりに職制が全員から休日出勤に應じますつてサインとつてある。それを拒否すると何回も組長なんかまわつてきて、仕事してるそばでノートもつて、でてくれよ、でてくれよ、と、くさがつてしつこういくらしい。五、六人に休まれたらもうラインに影響あるわけね。

やつぱし不満はうつせきしてるからね。正社員はボカ休をやるんだな。ある日、何の理由もないのにパツと休んじやう。しめしあわせて休んでみたりね。そうするとラインがくるつちやう。

ぼくの次の工程はヘッドクラインングつていって、クルマの屋根の内側にスポンジみたいのをはりつけるやつなの。そこは3人いて、みんな正社員、3人とも20くらい。これが3人いっしょに休んだもんね。あれはね、けつこう熟練を要するから、だれもやるやつがない。組長とか係長が臨時にはいるけど、一日中やつてるわけにはいかないでしょう。結局だれかがむかえにいく。そのときは1人きりで、2人はこなかつた。

白水叢書

高橋悠治

水牛楽団のできるまで

「辻音楽師」の感じとでもいえそうな水牛楽団の演奏スタイル。常に闘う民衆の運動の側に身を置き、そこから生まれてくる文化に音楽的に結びついていこうとするユニークな活動。その活動を日記風に綴った先鋭的な第五エッセイ集。 定価1400円

白水社
東京神田小川町
Tel.03-291-7811

がえればおそらく10%くらいまでいってるとおもうんですね。東京のこの辺はせいぜい2%もないとおもうんだ。沖繩の失業が自動車産業をささえてるって感じ。

沖繩からきて寮に住んで会社のメシ食って、あんまりあそんだりしなければ、けっこういいカネがたまる。そりゃ沖繩ではたらいてるかぎりは、とてもじゃないけどカネためるなんてできないからね。満期になって、こんなとこ二度ときたくないとおもいながら帰って、もむこうでまた仕事がないと、どうしようか、しようがない、またいこう。そういうかたちで何回もきてる人たちがふえてるみたいなのね。車体課は溶接が中心で仕事がついから、ほとんどまたくることはないみたい。製造管理とか供給課は流れ作業じゃないから、その分だけラクですよね。運がよくてラクなセクションに配属されたやつはもう一回くる。半年きて一カ月帰り、また半年きてというパターンが定着すれば、いわば職業の季節労働者が大量にうまれることになる。なかには結婚してる人もけっこういるんですからね。

——そういうことはこつちで工場へはいるまで見えなかつたわけだ。

そう。沖繩では季節工や出稼ぎはまだぜん

ぜん問題になつていない。そもそもそんなに出稼ぎがくるようになったのはこの数年だから、ほとんど知られてないとおもうんだよね。地元の自治体、組合総ぐるみで、失業不安を解決しようにも産業基盤が沖繩にはないから本土就職のキャンペーンをはってるわけですよ。そこで日産が二千人とか三千人つれていく状態が定着すれば、沖繩の失業者たちは流民になつていく。このことがこれから一番問われなきやならないんじゃないかな。

かつて日産の京都工場で季節工の反乱でいうのがあったの。わかります？ それはやっぱりラインのスピードアップに反対していつせいに生産放棄して事務所におしかけたっていう有名な事件があるわけね。

そういうことがいつおこつてもふしぎじゃない状態になつてる。五、六人くらいグループをつくつて呼びかければ、仕事はきついし、くそももしろくないし、不満はいっぱいあるからね。

ただ季節工ってのははじめから半年契約で、とにかくカネをつくりたいということできてから、半年がまんすればこんなところおさらばだ、ということがあるから、わざわざ

という感じにはなかなかならない。沖繩からきてる人たちっていうのは、車を解雇された人たちとかね、かつての組合運動の経験者とかたくさんいる。そういう人はしになると、わざと、この組合は同盟系で御用組合だからなあってでつかい声でしゃべるやつがいるわけね。同盟系の組合を通した労務管理体制とかについては見ぬいてはいる。だけど、自分で先頭にたつて立ちあがるという気にはなかなかならないね。

東南アジアのあたらしい音楽の要素

ホセ・マセダ

東南アジアの村で、人びとは自然にふれるいなかの環境にすむ——草木、けもの、かたちある要素、音、精霊が生きている——これが人びとのくらしと音楽に影響する。楽器——竹、草木の一部、けもの皮、貝、角などの材料——それらのひびき、音楽のかたち、歌やそのことばも、この環境をうつしたすことおおい。この音楽すべては村のくらしにかかわり、たのしみごとから宗教儀式にいたる。この音楽は、年やカネのあるなし、社会階層にかかわらず、みんながきいてよい。ゴングや2弦クジャビー（舟形リュート）のような楽器はほかのものより演奏がむずかしいが、おおくの楽器はほとんどだれでもがくらしのなかで演奏しているほど単純なものだ。

演奏のこの単純さは村人が音楽をだれでも近づけるかんたんな音とみなすからで、木からつんでたべられる果物や、台所ですぐ料理でき草の葉とおなじだ。たくさん音楽のひびきはさまざまな要素のおいしげる世界のほんの一部にすぎない——有機体、人びと、自然のふんい気がこの熱帯世界をつくつている。現代の東南アジアで、この村のふんい気全体があたらしい音楽表現のものになれるだろう。おなじ楽器でもつかい方をかえればよいのだ。たとえば、何百人もの人が演奏すれば、自然のふんい気のようにおしげる音のかたまりをつくれるだろう。伝統的な儀式や祈りのあるものはこり、狩りや畑しごとや和声などの音楽はかえられ、あらためられる。ま

た、現代の建物、娯楽センター、公園、駐車場、行楽地、商業センター、飛行場は村の庭や式場にかわつて音楽の場にもできる。もうひとつ、いままでの洋楽器をラジオやトランジスターにとりかえるのも現代のやり方だ。いまいった三つの点をまとめて、あたらしい音楽表現を裏づけることができる。人びとを演奏者としてつかうこと、音楽の社会的使用、その音楽をつくる音の要素の三つだ。熱帯で人びとは草木やけものとおなじく生命の一部であり、バリやジャワの絵では人びとは自然にとけこんでいる。そのように、あたらしい音楽で何千人もが参加して、自然界をかたちづくる要素となる音をだすこともできる。たとえば、東南アジアのほとんどの気候の特徴

である湿気は、ほとんどきこえない音や突き通すような音の楽器の特殊な音をびっしりつめこんであらわすことができるだろう。一九七四年の作品「ウグナヤン(むすびつき)」では、竹の弦を打つ音が20声部にわかれてさまざまな間隔とずれをもつてつかわれる。はじめは20声部のそれぞれで2つの弦だけをならす比較的うすい集中度の音。曲がすすむと、それぞれの竹筒につき、1秒間になる音の数をかえながら3弦から5弦をはじく。20声部は空気中の水分をつくる個々の分子にたとえられる。ちいさなへやでは、20声部のそれぞれが1秒間に5から10個の音をだし、わりと低い密度、または空気の低い湿度をつくる。

だが、この20声部がラジオのトランジスタのような音複製器で千倍になり、二千のトランジスターが1秒間に5から10個の音をだせば、へやは音でいっぱいになってしまふ。「ウグナヤン」にじつさいに参加する人びとは、空気の一部になってしまふのではない。自分たちでこの音の空気を調整できるのだ。二千人の演奏者が野外にいれば音はちらばり、環境にあたらしいふんい気をそえる。ちいさなグループにわかれ、ちがう方向にあるいたり、いっしょになつてもいい。ちがう気分が

そこであまれる。このタイプの音楽はちがう場所に應用できる——市場、公園、庭、商業センターや飛行場——そこにある騒音をやらげ、しずけさをひろげるような音楽の空気をつくりだす。

「ウグナヤン」の演奏にマニラの36の放送局全部が同時に20+16のテープ(16は最初の20のうちの16のコピー)を放送し、電波のどく範囲で無数の人びとにこれらの音楽の部分をきかせた。トランジスターをもつたグループは、家のなかの2、3人から公共の場所での何千人にいたるまで、大マニラのマカティ地区ではじつに一万人位がこの音楽を再生した。この音楽がどんな風にきこえたか、充分な推定はできなかった。あるあつまりではうすいひびき、ほかではたいへんこい空気がたまつた。場所によつては人びとのおしやべりや騒音が音楽を圧倒したが、しずかなところでは音楽のしずけさがきき手にふかい印象をのこした。一回の演奏、または放送ではこの音楽のもつ可能性をしめすのに充分でない。目標は定期的な放送、たとえば6カ月から1年のあいだ週一回やり、人びとがまわりにたなびく音楽になれ、花や木や電灯や泉がまわりをひきたてるようにそれをうけいれることだ。

る音楽を放送し、それぞれの国で公園や庭園を散歩する無数の人びとにきかせることもいつかはできるだろう。この音楽はその機会ごとにちがう感じをもち、この種の定期放送が發展して、都市を区別する特徴ある音をつくりだすこともできるだろう。

今日の世界の發展するテクノロジは、人びとの文化上の必要やこのみにあわせて、それを検討し、ちがうやりかたでそれをつかう機会をあたえる。たとえば、商業センターや空港で、何百ものスピーカーが一つの音源ではなく数個の音源にむすばれ、いくつかの音がたぐさんのスピーカーから流れ、特定の中心をもつ音楽が別な中心から流れる音楽に對立するようにもできる。団地の街灯にスピーカーをつけて、昼夜の一定の時間にそこから出入りする自動車の交通量にあわせて音楽を流すこともできる。こうして音楽は環境の音をかえ、それらを強調することができる。

人びとが熱帯の自然の一部であり、そこにたけこみながらそれを調整するといふかんがえは、たぐさんの人が参加する演奏によつてはじめて必要な音量がえられる場合にもあらわれる。私の作品「UBLOI-UBLOI」には八百人の高校生が演奏に参加した。もつとすくなく

もおおくてもよかつた。無数の参加者があつてもよかつた。この音楽は国歌のように一つのメロディーを何千人が演奏したりうたつたりするだけのものではない。たぐさんの人がそれぞれちがう音を演奏しながらそれをこまかくして野外に散らすのだ。音を大きくするのではない。たぐさんの人がこの音楽をわかちあうためには、単純な音を演奏し、しかも音楽がバカみたいでおもしろくないといううなことにならないようにする必要がある。単純な音をつかうこともやはり東南アジアのいなかの音楽文化にはなじみのものだが、この単純さがUBLOI-UBLOIのなかではたぐさんの人が参加できるためにつかわれ、かれらがいっしょになつて複雑な音のかたまりをつくりだす。

UBLOI-UBLOIの社会的使用とは別に、音楽的に重要なのはこの作品の基本構造をつくつている音のくりかえし、または連続の原理だ。くりかえしは三つのかたちでUBLOI-UBLOIにつかわれる。一つは音楽の間ずつとくりかえされる棒を打ちあわす音。もう一つは人の声で、休みをはさんで単純なメロディーをくりかえす。第三のタイプはゆつくりした音の連続で三種の楽器がだんだんにいれかわるもの。こ

カセット 光州よ永遠に!

尹伊桑 作曲 範例—光州よ永遠に
夜よひらけ
高橋悠治 作曲 韓国抵抗歌集
光州から

演奏 東京シテイ・フィル
指揮 高橋悠治
定価2000円 送料240円
水牛編集委員会
振替口座東京4-91792

「ウグナヤン」ではもうひとつ、放送局のつかいかたがある。20+16の放送局のそれぞれが楽器になり、放送局全部あわせてオーケストラになつた。無数の受信器やトランジスタがもとの20のテープの音を複製するミニ楽器になり、演奏会場の限界をはるかにこえ、広い地域に音楽をひろめた。放送局をつかうと、放送局の20のテープのもの、オーケストラはトランジスターそれぞれミニチュア音をくみあわせた無数のオーケストラになつた。東南アジアのどこか別なところで、20の放送局をいっしょにしてラジオのオーケストラによ

これらの楽器は生地を変化させながら、リズムのはっきりしたフレーズをもたない音のかたまりや雲をつくる。三つのかたちのくりかえし全体の効果はとけあつた生地の連続性で、ながい時間つづき、音楽に終りがないうような印象をあたえる。くりかえしの原理は口琴やバリンピン(ピーンという音を出す竹楽器)や棒やゴングのような東南アジアの楽器によくつかわれる。

この楽器を学生に演奏させることにあたらしい教育的価値がある。UBLOI-UBLOIで一組の棒で打つリズム型は三つたいて一つ休んで一つたたく、五拍のリズム・フレーズになる。五を単位としてかぞえるのは東南アジア音楽にはあまりなく、西洋音楽にもほとんどない。五拍リズムの意識は演奏者にもきき手にも、ちがう時間のはかり方、だからものごとのあるたらしい秩序や、そうしたものにもちびくあたらしいかんがえ方をしめしている。教育上では他に、楽器の「高さ不定の」(つまりうたえない)音や、やすい地域の楽器の使用や、一音メロディーといふかんがえ、リズムのない音楽、楽器ではなく一組の数字と記号でよむ音楽という点に価値がある。

東南アジアの楽器のあるものは、演奏技術

やその材料とつくりからいっても、いままでの西洋楽器や電子音楽ではまずきけない特徴のある音をつくりだす。たとえば切りだし弦のチャターは竹だけがつくれる独特の音をだす。弦を指ではじいても、いろいろな大きさの撥でたたいたり、撥の重みでおさえたり、はなして振動させたりできる。からっぽな共鳴胴を打つ音は竹の大きさや厚さ、共鳴部分のあたりと開口部、打ち方やかわれる棒や撥によつてかわる。口琴はいまやよく知られた楽器になつたが、つくりによつて音もちがう。舌の位置で音声や音素の構造を変えられることができれば、その音の独特な変化をマスターすることができる。

編集後記
自分は自分だけでできあがつているわけではない。親たちの体験、そのまた親たちの体験をも、自分の体験として感じることでできる力がわれわれになければ、歴史なんでもの成立しようがないだろう。
シナリオ「お父さんの戦争体験」のなかで語られているのは、おそらく読者のおおくとつては、すでに何度か耳にしたことのあるような事実だろうと思う。だが、その事実がだんだんに見えてくるこのような事実の見えかた、というか、日本人の「娘」が自分の「お父さん」の体験の暗いところに光をあてて、「お父さん」の体験の意味を、あくまでも「お父さん」といっしょにはつきりさせたいと願う彼女の「希望」によつて、はじめて見えてくるものがたしかにあるのだ。

購読の御案内
*本誌は書店にはおきません。毎号確実に入手されるためには編集部あて予約購読の申し込みをしてください。発刊と同時に直送します。
*申し込みと送金は郵便振替(口座名 水牛編集委員会、口座番号東京四一九一七九二)または現金書留でお願いします。
住所、氏名、電話番号、何号からということを明記してください。
*購読料は送料とも一年分三〇〇〇円、半年分一八〇〇円です。

水牛通信 第三巻第十一号
一九八一年十一月十日
定価 二〇〇円
発行人 堀田正彦
発行所 水牛編集委員会
〒154東京都世田谷区新町2-15-13 八巻方
電話〇三(四二五)九六五八
振替口座東京四一九七九二
印刷所 株式会社ライオンプリントショップ

十月六日はタイの軍事クーデター「血の水曜日」からかぞえて五年目、おなじく十四日は学生革命の八周年にあたる。その六日から十四日まで、水牛楽団はタイに滞在して、さまざまな集会で演奏をおこなった。その報告は次号で特集します。

アジアのあたらしい音楽表現は楽器の音のだし方やそのあつかい方のなかに見つけることができる。現代のテクノロジーがあたらしい音をあたらしいテクノロジーの素材にさかすとするれば、古いテクノロジーの素材にあたらしい音をさがすことも可能だし、その方が音楽と生活の関係が前から文化によつてひきだされている利点もある。現代の電子音楽やコンピューター音楽の素材音はそれにくらべると、まだ時間や時代の吟味をうけるにいたっていない。